

青年農業者の輪をつなげよう！

～農業経営体育成セミナーの開催～

1 活動のねらい

千葉地域の新規就農者は、他産業からの新規参入者が増加しており、就農の経緯や年齢等が多様化しています。そこで、就農して間もない青年農業者を対象とした農業経営体育成セミナー（以下セミナー）では、カリキュラムや受講者の交流を深める工夫により、新規就農者の確保・定着を図りました。

2 課題の背景

セミナーでは、就農して間もない青年農業者（45歳以下）を対象に、農業経営者として必要な知識が身につくよう、3年間で段階的な研修を実施しています。今年度は26名の受講者のうち15名が新規参入者で、年齢は20代から40代までと幅広くなっています。また、新型コロナウイルス感染症拡大により、ここ2年間、集合研修や視察が度々中止になる等、受講者同士の交流を十分に行うことができませんでした。

3 普及活動の経過・結果

（1）基本研修受講者の掘り起こし

令和3年度は、1年目の基本研修受講者が3人と少なく、令和4年度の見込みも当初は厳しい状況でした。そこで、各市の関係機関が連携する会議等の機会も活用し、地域に潜在している新規就農者の情報提供について協力してもらいました。受講候補者には、セミナー担当と専門項目担当が訪問し、セミナーの目的や内容等を説明しました。また、親元就農の場合は、セミナー受講に対して理解が得られるよう、両親に同席してもらいました。こうした積極的な掘り起こしをした結果、今年度は受講者が13名となりました。

（2）カリキュラムの工夫

主となる研修内容は県で定められていますが、受講者の農業経営を考慮し、カリキュラムを工夫しました。2年目の専門研修では、直売やSNSを活用して集客や情報発信を実践する受講者に合わせて、直売経営の優良事例の視察や、外部講師によるSNSの発信や



写真1 SNS映えする撮影方法の講義

SNS映えする写真撮影の研修を開催しました。また、3年目の総合研修では、日本政策金融公庫の協力を得て、規模拡大の資金調達を必要とする受講者に対して、融資を受ける際に必要となる資金計画や返済計画の

作成について講義しました。さらに、経営主としての経営改善の考え方、新たな品目の導入や6次産業化の取組等について学ぶため、農業士の経営視察も実施しました。

(3) 受講者による仲間づくり

相互研さんでできる機会として全ての受講者を対象とした合同研修を実施しました。今年度は受講者の多くが乗用型トラクターを所有し日常的に使用しているため、農業機械研修を開催しました。また、多くの受講者は市場出荷を主としているため、日本一の取扱規模と先進的な市場機能を有する大田市場の視察を実施しました。

農業機械研修では、農業機械を扱う専門家を講師に、乗用型トラクターを用いて基本的な点検整備やエンジンオイルの交換方法等を学びました。また、講義内容や最近の営農状況等について、グループに分かれ意見交換する場を設けました。グループは、他コースの受講者と組むよう配慮するとともに、改良普及課の担当者を配置して、受講者が円滑に情報交換できるよう支援しました。

大田市場の視察では、流通販売課首都圏マーケティングセンター職員からの講義や場内見学を実施しました。意見交換の場や視察のバスの中では、様々な受講者と交流でき、受講者の仲間意識の醸成が図られました。「自身と似た経営をしている受講者と話が来て良かった」との感想もありました。合同研修でより多くの受講者と意見交換することで、仲間づくりの輪がさらに広まりました。



写真2 市場内を見学する受講者

4 今後の課題

受講者が農業経営者として地域に定着するために、セミナーの開催を通じて、知識・技術の習得とともに、関係機関や地域の農業者をつながりができるよう支援します。そして、受講者が次代の農業を担う中核的農業経営者となるよう育成していきます。

- 5 担当者 千葉・習志野グループ 井上 絵里加、◎木村 明花音
市原グループ 山下 瀬里奈、鳥海 聖人
八千代グループ 田中 稔久、水島 莉那

- 6 協力機関 千葉市、習志野市、市原市、八千代市、JA千葉みらい、
JA市原市、JA八千代市、千葉県指導農業士会千葉地区会、
千葉県農業士協会千葉支部、千葉地域農林業振興普及協議会